

自由・公正で透明性のあるルールに基づいた国際秩序の構築は可能か

—日本国際問題研究所で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 外務省のシンク・タンクである日本国際問題研究所の会合に参加したそうですね。

A : (1)はい。2019年12月2日と3日に、日本国際問題研究所創立60周年を記念して開催された、第1回東京グローバル・ダイアログに会員の一人として参加させて頂きました。

(2)テーマは、「自由・公正で透明性のあるルールに基づいた国際秩序の構築は可能か」でした。

(3)安倍晋三 内閣総理大臣、茂木敏充 外務大臣や16か国からの代表を含め60名がスピーカーやパネリストとして、また、約300名が聴衆として参加しました。

Q 2 : どのような内容が話し合われたのですか。

A : 前日、インドでの外交交渉から帰国した茂木敏充外務大臣は、日本の外交政策として①「既存の国際ルールを守り、鍛え直す」、②「時代の要請に即した新たなルール作りを主導する」、③「選択肢の多様化を通じた自由・公正な経済発展」を表明しました。

Q 3 : 「自由と公正」を支えるものは何ですか。

A : (1)茂木外務大臣は、「選択肢があること」、「個人における人生の選択肢であれ、国家における政策の選択であれ、いくつかの選択肢があることで初めて国家の望ましい『自己実現』が可能になります。一つしかオプションのない状況では、個人、そして国家の潜在力を開化することはできません。企業戦略についても全く同じことだと考えます。」と主張しました。

(2)「多様な選択肢のある人生を歩むこと」ということばは、教育の目的の1つでもありますので、私は大賛成です。

(3)国家や地域、企業にも選択肢を提供することが「自由と公正」を支えるものとする考えは、素晴らしいものがあります。

Q 4 : 日本の外交政策は何ですか。

A : (1)「国際協調主義」と「人間の安全保障」の推進です。「ルールを守る」「ルールを作る」「選択肢を増やす」という、茂木外務大臣がお示しになった外交政策は、国際協調主義、とりわけ「自由で開かれたインド太平洋」の本質をなすものです。

(2)「経済協力に際しては、単に資金を出し、インフラ、箱モノを作るのではなく、常に現地の雇用の創出を追求し、キャパシティ・ビルディング、人材育成を通じて、自律的發展

の原動力となるような長期的な視野から支援を行うこと」は、「人間の安全保障」に直結すると思います。

* 茂木敏充 外務大臣の発言部分は、外務省の HP を参照させていただきました。

(3) 中国の習近平 国家主席が表明した「中国製造 2025」に端を発した米国と中国の経済競争の激化の中で、「自由・公正で透明性のあるルールに基づいた国際秩序の構築」を日本が主導することは、世界の平和と繁栄に役立つと考えます。

Q 5 : 日本をとりまく国際環境の中で、最も大きなことは何だと考えますか。

A : (1) 世界第 1 の経済大国であるアメリカが閉鎖的になりつつあり、逆に世界第 2 の中国が世界に打って出ようとしているため、両国の差がどんどん縮まっていることです。

(2) 中国の世界各地への進出意欲は極めて盛んで、例えばアフリカ 54 か国中 53 か国に 2021 年ごろにはインターネットが整備され、5G の基地局の多くが中国製になると予想されています。

(3) そのような中で日米同盟を基軸としながらも、日本が中国やロシア、韓国、北朝鮮とも友好的な関係を構築しながら「自由と公正」という価値観を共有する世界各国・各地域との関係をこれまで以上に強め、win-win の関係を築き上げることが求められます。

Q 6 : そのために、日本国民として、また、教育サービスを提供する学習塾・予備校・私立学校として果たすべき役割は何だと考えますか。

A : (1) まずは、教え手である先生方が、日本や世界各国の歴史、とりわけ、近現代史をできるだけいねいに学び直すこと。

(2) 次に、先生方が新聞をできるだけいねいに毎日読み、日本及び世界各国の現代的課題を認識することだと考えます。できれば「英字新聞」も毎日お読みください。日本の新聞と比べ、全く異なったものの見方に接することができます。

(3) その上で、担当する塾生・生徒の皆様にこのような状況の日本や世界で学ぶ意味・目的を自分の頭で考えるように促すこと、高い志を持ち自律的に行動する国民を一人でも多く育て上げること。

(4) 留学生や外国から来られた塾生には、中国からの留学生 孫文が教わった「藤野先生」のように、親しく教えて頂きたいと思えます。

(5) また、ときどきは、外国にも出掛けて見聞を広め、その成果を日々の教育にも生かして頂ければと思います。外交や防衛は、外務省や防衛省の大臣や役人、自衛隊の方々のみが担うものではありません。国民一人ひとりが外交官・自衛官になったつもりで、民間でできることは民間で行う。草の根レベルでの国際理解・友好関係の構築に努めるべきと考えます。

(6) 日本や世界各国の古典・芸術・スポーツ・料理などに親しむ。外国から日本に留学生を招くだけでなく、自分の教え子にはたとえ短期でも OK ですから、一生のうち 1 ~ 2 回は自力で外国留学をするようにおすすめてください。

Q 7 : 学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A : (1) 国家の存立なくして、企業活動はありません。学習塾・予備校・私立学校の経営もありません。

(2) 日本は、1945年の第2次世界大戦終了後75年間、戦争のない平和な状況が続いています。

(3) 外交や国防について、日本のおかれた状況を認識した上でどう日本の外交や国防を考えるかは、国民の一人としての義務と考えます。

(4) 本年創立60周年を迎えた日本国際問題研究所は、米国ペンシルベニア大学の「世界シンク・タンク調査」でアジア第1位、全世界6000のシンク・タンクの中で第14位に位置する日本のリーディングシンク・タンクです。日本をとりまく国際関係や日本外交の研究のメッカですので、会員となり、情報収集や今回のようなセミナー参加をおすすめいたします。(年会費は10,000円です)

(5) 無料で閲覧できるHPも充実していますので、ぜひご覧ください。外務官や国際公務員、国際ビジネスマンを目指す塾生や卒業生の皆様にも、ご紹介ください。

Q 8 : 最後に一言どうぞ。

A : 今月も、お読みになれば必ず参考になると思われる本をご紹介します。

(1) 1冊目は、公益財団法人日本国際問題研究所著「戦略年次報告書2019、自由・公正で透明性のあるルールに基づいた国際秩序の構築は可能か」国際問題研究所2019年11月刊(www.jiia.or.jp)です。英語版もあります。日本の外交課題が手際よくまとめられた最先端のレポートです。ホームページで、日本国際問題研究所の公開レポートのほとんどが閲覧可能です。ご活用ください。

(2) 2冊目は、先月ご紹介した、物理学者で中国問題の専門家である遠藤誉先生著の「『中国製造2025』の衝撃」PHP研究所2019年1月11日刊の続編、遠藤誉著「米中貿易戦争の裏側—東アジアの地殻変動を読み解く—」毎日新聞出版2019年11月9日刊です。まずは「『中国製造2025』の衝撃」をじっくり読み、基本的な事項を理解し定着させてからご熟読ください。

(3) 3冊目は、No1 憲法学者の山本龍彦著「おそろしいビッグデータ、超類型化 AI 社会のリスク」朝日新書、朝日新聞出版2017年11月30日刊です。山本龍彦編著「AI と憲法— AI に選別される危機—」日本経済新聞出版社2018年8月24日刊の入門書として最適です。遠藤先生の2冊の本と山本先生の2冊の本でAI・5G社会の実相が一気に迫ってきます。

(4) 4冊目は、渡部昇一・谷沢永一著「貞観政要—^{じょうがんせいよう}上に立つ者の心得—(新装版)」致知出版社2019年10月1日刊です。『貞観政要』を読まなかった織田信長や豊臣秀吉の政権は短命に終わり、読んだ徳川家康や北条政子の政権は繁栄を築いたといわれる、帝王学の名著『貞観政要』の入門書。世界最高の『貞観政要』のテキスト。原田種成著「貞観政要—上下一—」新釈漢文大系、明治書院刊の最良の入門書です。

(5) 5冊目は、ロバート・K・グリーンリーフ著「サーバントであれ—奉仕して導く、リーダーの生き方—」英治出版2016年2月23日刊です。同著「サーバント・リーダーシップ」英治出版刊の入門書として、とてもわかりやすく、真に迫るものがあります。ぜひ、ご一読

ください。

(6) 今月は、まずは「入門書」、次に「本格的な著作」の順序で本の紹介をさせて頂きました。

初めから難解極まる「本格的な著作」に挑戦して途中で挫折するよりは、初めは「入門書」で著者の考えに慣れ親しんでウォーミングアップ。しかる後に、「本格的な著作」に挑戦するのも一手です。

(7) 但し、一度挫折した「本格的な著作」も、力をつけてから気を取り直して元気なときに挑戦すると、「一気」に読了できることもあります。

大いに、本格的な読書に励みましょう。

今年もどうかよろしく願い申し上げます。

2019年12月3日(火)